

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

緩下剤

ピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」

PICOSULFATE Na

ピコスルファートナトリウム錠

剤 形	割線入りの素錠
製 剤 の 規 制 区 分	該当しない
規 格 ・ 含 量	1錠中日局ピコスルファートナトリウム水和物2.5mg含有
一 般 名	和名：ピコスルファートナトリウム水和物 洋名：Sodium Picosulfate Hydrate
製 造 販 売 承 認 年 月 日 薬 価 基 準 収 載 ・ 発 売 年 月 日	製造販売承認年月日：2014年 1月27日(販売名変更) 薬価基準収載年月日：2014年 6月20日(販売名変更) 発 売 年 月 日：2020年 5月18日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元：沢 井 製 薬 株 式 会 社 販 売 元：日本ジェネリック株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問 い 合 わ せ 窓 口	日本ジェネリック株式会社 お客様相談室  : 0120-893-170 FAX 番号：0120-893-172 医療関係者向けホームページ http://www.nihon-generic.co.jp/medical/index.html

本IFは2020年2月作成の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ<http://www.info.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF利用の手引きの概要 ―日本病院薬剤師会―

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IFと略す)の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(<http://www.info.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」(以下、「IF記載要領2013」と略す)により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目次

I. 概要に関する項目	1	VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	16
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	16
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	16
		3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	16
II. 名称に関する項目	2	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	16
1. 販売名	2	5. 慎重投与内容とその理由	16
2. 一般名	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	16
3. 構造式又は示性式	2	7. 相互作用	16
4. 分子式及び分子量	2	8. 副作用	16
5. 化学名(命名法)	2	9. 高齢者への投与	17
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	3	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	17
7. CAS登録番号	3	11. 小児等への投与	18
		12. 臨床検査結果に及ぼす影響	18
III. 有効成分に関する項目	4	13. 過量投与	18
1. 物理化学的性質	4	14. 適用上の注意	18
2. 有効成分の各種条件下における安定性	4	15. その他の注意	18
3. 有効成分の確認試験法	5	16. その他	18
4. 有効成分の定量法	5		
		IX. 非臨床試験に関する項目	19
IV. 製剤に関する項目	6	1. 薬理試験	19
1. 剤形	6	2. 毒性試験	19
2. 製剤の組成	6		
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	6	X. 管理的事項に関する項目	20
4. 製剤の各種条件下における安定性	7	1. 規制区分	20
5. 調製法及び溶解後の安定性	7	2. 有効期間又は使用期限	20
6. 他剤との配合変化(物理化学的変化)	7	3. 貯法・保存条件	20
7. 溶出性	8	4. 薬剤取扱い上の注意点	20
8. 生物学的試験法	9	5. 承認条件等	20
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	9	6. 包装	20
10. 製剤中の有効成分の定量法	9	7. 容器の材質	20
11. 力価	9	8. 同一成分・同効薬	21
12. 混入する可能性のある夾雑物	9	9. 国際誕生年月日	21
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	9	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	21
14. その他	9	11. 薬価基準収載年月日	21
		12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	21
V. 治療に関する項目	10	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	21
1. 効能又は効果	10	14. 再審査期間	21
2. 用法及び用量	10	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	21
3. 臨床成績	10	16. 各種コード	22
		17. 保険給付上の注意	22
VI. 薬効薬理に関する項目	12		
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	12	XI. 文献	23
2. 薬理作用	12	1. 引用文献	23
		2. その他の参考文献	23
VII. 薬物動態に関する項目	13		
1. 血中濃度の推移・測定法	13	XII. 参考資料	24
2. 薬物速度論的パラメータ	13	1. 主な外国での発売状況	24
3. 吸収	14	2. 海外における臨床支援情報	24
4. 分布	14		
5. 代謝	14	XIII. 備考	24
6. 排泄	15	その他の関連資料	24
7. トランスポーターに関する情報	15		
8. 透析等による除去率	15		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

ピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」は、日局ピコスルファートナトリウム水和物を含有する緩下剤である。

ピコスルファートナトリウム水和物は、胃、小腸ではほとんど作用せず、大腸の蠕動運動を亢進させ、緩和な瀉下作用を示す。¹⁾

本剤は、後発医薬品として下記通知に基づき、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、承認を得て上市に至った。

	スルチミン錠(旧販売名)
承認申請に際し準拠した通知名	昭和55年5月30日 薬発第698号
承認	1992年2月

2006年12月に「医療事故を防止するための医薬品の表示事項及び販売名の取扱いについて」(平成12年9月19日付 医薬発第935号)に基づき、「スルチミン錠2.5mg」に販売名を変更した。

また、2014年6月に「医療用後発医薬品の承認申請にあたっての販売名の命名に関する留意事項について」(平成17年9月22日 薬食審査発第0922001号)に基づき、『ピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」』に販売名を変更した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- 1) 胃、小腸ではほとんど作用せず、大腸の蠕動運動を亢進させ、緩和な瀉下作用を示す。¹⁾
- 2) 機能性便秘患者119例²⁾、上部消化管X線検査を実施した患者28例³⁾に本剤を使用した結果、その有用性が確認されている(V. -3. 参照)。
- 3) 既存のピコスルファートナトリウム製剤(同剤形)と比較し、効能・効果、用法・用量は同一である。
- 4) 副作用として、腹痛、悪心、嘔吐等が報告されている(頻度不明)。

Ⅱ. 名称に関する項目

Ⅱ. 名称に関する項目

1. 販売名

1) 和名

ピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」

2) 洋名

PICOSULFATE Na

3) 名称の由来

通知「平成17年9月22日 薬食審査発第0922001号」に基づき命名した。

2. 一般名

1) 和名(命名法)

ピコスルファートナトリウム水和物(JAN)

2) 洋名(命名法)

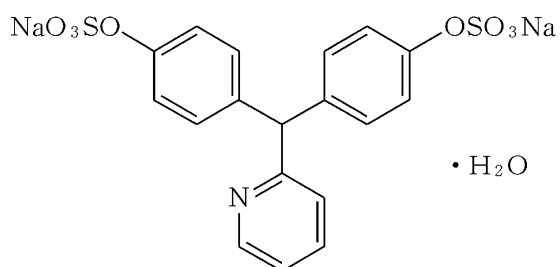
Sodium Picosulfate Hydrate(JAN)

Sodium Picosulfate(INN)

3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式: $\text{C}_{18}\text{H}_{13}\text{NNa}_2\text{O}_8\text{S}_2 \cdot \text{H}_2\text{O}$

分子量: 499.42

5. 化学名(命名法)

Disodium 4,4'-(pyridin-2-ylmethylene)bis(phenyl sulfate) monohydrate(IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号
特になし

7. CAS登録番号
10040-45-6[無水物]

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

1) 外観・性状

白色の結晶性の粉末で、におい及び味はない。

2) 溶解性

水に極めて溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、エタノール(99.5)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

溶解度(37℃)⁴⁾ : pH1.2 : 848mg/mL、pH4.0 : 863mg/mL、pH6.8 : 856mg/mL、水 : 849mg/mL

3) 吸湿性

水分 : 3.0~4.5% (0.5g、容量滴定法、直接滴定)

4) 融点(分解点)、沸点、凝固点

融点 : 272~275℃ (分解)⁵⁾

5) 酸塩基解離定数

pKa : 5.32 (常温、スルホン酸基、分光光度法)⁴⁾

pKa : 5.50 (常温、スルホン酸基、滴定法)⁴⁾

6) 分配係数

該当資料なし

7) その他の主な示性値

pH : 本品1.0gを水20mLに溶かした液のpHは7.4~9.4である。

吸光度 $E_{1\text{cm}}^{1\%}$ (263nm) : 120~130 (脱水物換算、4 mg、水、100mL)

2. 有効成分の各種条件下における安定性

光 : 光により徐々に着色する。

液性(pH)⁴⁾ : pH1.2、37℃、24時間で約29%分解する。

pH4.0付近では45℃以下で比較的安定である。

pH7.0以上のアルカリ性で極めて安定である。

3. 有効成分の確認試験法

日局「ピコスルファートナトリウム水和物」の確認試験に準ずる。

- 1) 水酸化カリウム・エタノール試液による呈色反応
- 2) 塩化バリウム試液による沈殿反応
- 3) 紫外可視吸光度測定法による確認
- 4) 赤外吸収スペクトル測定法による確認
- 5) ナトリウム塩の定性反応

4. 有効成分の定量法

日局「ピコスルファートナトリウム水和物」の定量法に準ずる。(電位差滴定法)

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

1) 剤形の区別、外観及び性状

剤 形	表 (直径mm)	裏 (重量mg)	側面 (厚さmm)	性 状
割線入りの素錠	 6.0	 約85	 2.4	白色 におい及び味はない

2) 製剤の物性

製剤均一性：日局一般試験法 製剤均一性試験法の項により質量偏差試験を行うとき、規格に適合する。

溶出性：日本薬局方外医薬品規格第3部 溶出性の項により試験を行うとき、規格に適合する。
(水、15分：80%以上)

3) 識別コード

SW-905 (錠剤本体に記載)

4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

1) 有効成分(活性成分)の含量

1錠中に日局ピコスルファートナトリウム水和物2.5mgを含有

2) 添加物

添加物として、カルメロースCa、結晶セルロース、ステアリン酸Mg、乳糖、ヒドロキシプロピルセルロースを含有する。

3) その他

該当資料なし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性……………

1) PTP包装品の安定性(長期保存試験)

ピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」をPTP包装(ポリ塩化ビニルフィルム、アルミ箔)した後、ピロー包装(アルミ袋、乾燥剤入り)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、定量試験等の規格に適合し、安定な製剤であることが確認された。⁶⁾

保 存 条 件	イニシャル	室温・遮光 3 年
性 状	白色の割線入り素錠で、におい及び味はなかった	同左
溶 出 試 験	規格に適合	同左
定 量 試 験 ※	100.3	99.4

※：表示量に対する含有率(%)

2) 無包装下の安定性

ピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、安定性試験を行った。

その結果、湿度の条件下で性状変化及び硬度低下が観察された。⁷⁾

保存条件	イニシャル	温度 (40℃3 ヲ月)	湿度 (25℃75%RH 3 ヲ月)	光 (総照射量 120万lx・hr)
性 状	白色の素錠	変化なし	かけ、割れを起こした	変化なし
硬 度 (k g)	4.3	3.9	2.0	3.7
崩 壊 試 験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
定 量 試 験 ※	100.0	99.4	100.1	98.0

日本病院薬剤師会編「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報」の基準に準じて試験を行っている。

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

5. 調製法及び溶解後の安定性……………

該当しない

6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)……………

該当資料なし

IV. 製剤に関する項目

7. 溶出性

本剤は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められた規格に適合していることが確認されている。

＜溶出挙動における同等性及び類似性＞⁸⁾

通知等	「医療用医薬品の品質再評価に係る公的溶出試験(案)等について」：平成15年5月30日 医薬審発第0530002号	
試験条件	パドル法	50rpm(pH1.2、4.0、6.8、水)
試験回数	6ベッセル	

【結果及び考察】

＜50rpm：pH1.2＞

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

＜50rpm：pH4.0＞

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

＜50rpm：pH6.8＞

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

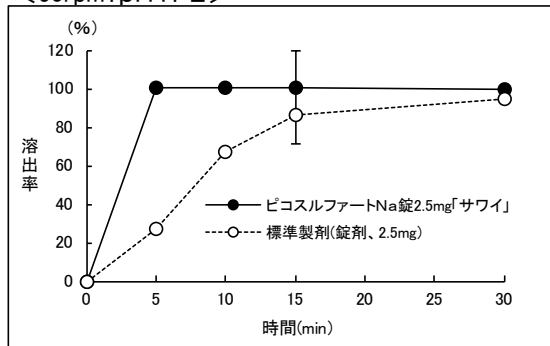
＜50rpm：水＞

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

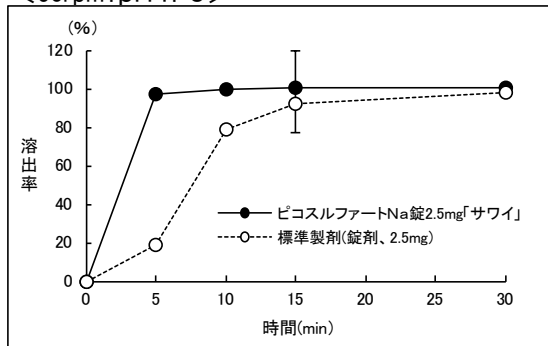
以上の結果より、両製剤の溶出挙動は同等であると判断した。

(溶出曲線)

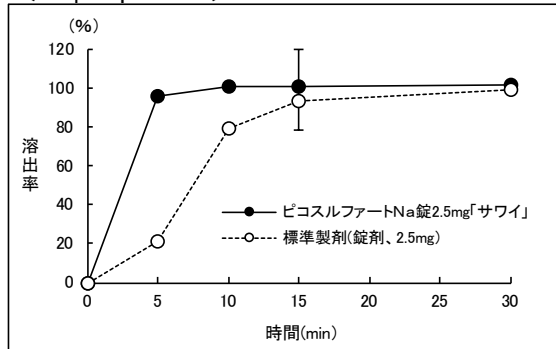
＜50rpm：pH1.2＞



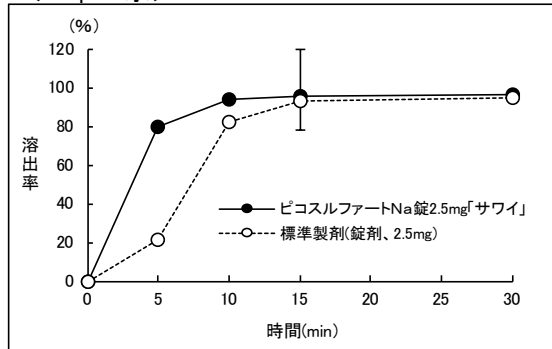
＜50rpm：pH4.0＞



＜50rpm：pH6.8＞



＜50rpm：水＞



(I : 判定基準の適合範囲)

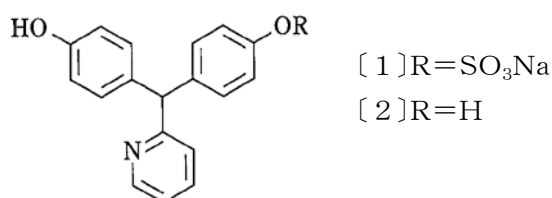
8. 生物学的試験法
該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法
1) 塩化バリウム試液による沈殿反応
2) 紫外可視吸光度測定法による確認
3) 薄層クロマトグラフィーによる確認

10. 製剤中の有効成分の定量法
液体クロマトグラフィー

11. 力価
該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物
有効成分に混在が予想される類縁物質には、ピコスルファートナトリウムの加水分解物である
4, 4' -(2-ピリジルメチレン)ビスフェノールモノサルフェイトナトリウム塩〔1〕と 4, 4' -(2-ピリ
ジルメチレン)ビスフェノール〔2〕がある。¹⁾



13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報
該当資料なし

14. その他
該当資料なし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

各種便秘症、術後排便補助、造影剤(硫酸バリウム)投与後の排便促進

2. 用法及び用量

各種便秘症には、通常、成人に対して1日1回2～3錠(ピコスルファートナトリウム水和物として5～7.5mg)を経口投与する。7～15才の小児に対しては、1日1回2錠(ピコスルファートナトリウム水和物として5mg)を経口投与する。

術後排便補助、造影剤(硫酸バリウム)投与後の排便促進には、通常、成人に対して1日1回2～3錠(ピコスルファートナトリウム水和物として5～7.5mg)を経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

1) 臨床データパッケージ

該当しない

2) 臨床効果

1) 便秘症

機能性便秘患者119例に本剤を投与したとき、3日後、1週後、2週後の改善率(「改善」以上)はそれぞれ81.4%、78.9%、77.3%であった。²⁾

2) 造影剤投与後の排便促進

上部消化管X線検査を実施した患者28例に本剤を投与したときの有効率(「有効」以上)は96.4%であった。³⁾

3) 臨床薬理試験

該当資料なし

4) 探索的試験

該当資料なし

5) 検証的試験

(1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

(2) 比較試験

該当資料なし

(3) 安全性試験

該当資料なし

(4) 患者・病態別試験

該当資料なし

6) 治療的使用

(1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

(2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

ピサコジル等

2. 薬理作用

ピコスルファートナトリウムの薬理作用について以下のとおり報告されている。

1) 作用部位・作用機序

胃、小腸ではほとんど作用せず、大腸の蠕動運動を亢進させ、緩和な瀉下作用を示す。経口投与後はほとんど吸収されることなく大腸部位にそのまま到達した後、大腸細菌叢由来のアリルスルファターゼにより加水分解されて活性型のジフェノール体を生じ、このジフェノール体が大腸粘膜を刺激し、蠕動運動を亢進させると共に水分吸収を阻害することにより、緩下作用が現れる。¹⁾

2) 薬効を裏付ける試験成績

体重3～5kgの雌雄ネコ(各群5匹)にピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」10錠又は標準製剤3.3mL(ピコスルファートナトリウム水和物として25mg)を水30mLとともに経口投与し、コントロール群には水30mLのみを経口投与した。

その結果、ピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」群及び標準製剤群はコントロール群に比べて腸管蠕動運動の亢進作用を反映すると考えられる初回排便時間、排便回数が有意に亢進し、また、腸管内での水分吸収阻害作用を反映する便硬度が有意に軟化した。

なお、ピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」群と標準製剤群との間に有意差は認められなかった。⁹⁾

3) 作用発現時間・持続時間

作用発現時間：約7時間前後¹⁰⁾

VII. 薬物動態に関する項目

ピコスルファートナトリウム製剤の薬物動態について以下のとおり報告されている。

1. 血中濃度の推移・測定法
 - 1) 治療上有効な血中濃度
該当資料なし
 - 2) 最高血中濃度到達時間
該当資料なし
 - 3) 臨床試験で確認された血中濃度
該当資料なし
 - 4) 中毒域
該当資料なし
 - 5) 食事・併用薬の影響
該当資料なし
 - 6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因
該当資料なし
2. 薬物速度論的パラメータ
 - 1) 解析方法
該当資料なし
 - 2) 吸収速度定数
該当資料なし
 - 3) バイオアベイラビリティ
該当資料なし
 - 4) 消失速度定数
該当資料なし
 - 5) クリアランス
該当資料なし
 - 6) 分布容積
該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

経口投与後、胃、小腸ではほとんど吸収されない。¹⁾

4. 分布

1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

3) 乳汁への移行性

該当資料なし

4) 髄液への移行性

該当資料なし

5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

1) 代謝部位及び代謝経路

＜参考＞大腸細菌叢由来の酵素により加水分解を受け活性化された後、腸管粘膜に作用する。ラットでは大部分は糞便と共に排泄され、一部吸収されたものは肝で更にグルクロン酸抱合を受けた後、尿中及び胆汁中に排泄される。¹⁾

2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種

該当資料なし

3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

4) 代謝物の活性の有無及び比率

大腸細菌叢由来のアリルスルファターゼにより加水分解されて活性型のジフェノール体を生じ、このジフェノール体が大腸粘膜を刺激し、蠕動運動を亢進させると共に水分吸収を阻害することにより、緩下作用が現れる。また一部吸収されたものはジフェノール体として胆汁中に排泄されるが、やはり大腸部位で局所的に作用すると考えられている。¹⁾

5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

1) 排泄部位及び経路

尿中及び糞便中¹⁾

2) 排泄率

該当資料なし

3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由.....

該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む).....

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

- 1) 急性腹症が疑われる患者〔腸管蠕動運動の亢進により、症状が増悪するおそれがある。〕
- 2) 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由.....

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由.....

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由.....

該当しない

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法.....

該当しない

7. 相互作用.....

1) 併用禁忌とその理由

該当しない

2) 併用注意とその理由

該当しない

8. 副作用.....

1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

2) 重大な副作用と初期症状

該当しない

3) その他の副作用

以下のような副作用があらわれた場合には投与を中止する等、適切な処置を行うこと。	
	頻度不明
消 化 器	腹部不快感、腹痛、悪心、嘔吐、腹鳴、腹部膨満感、下痢等
皮 膚	蕁麻疹、発疹等
肝 臓	AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇等

4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

1) 便秘症

便秘症における副作用発現率は7.6%(9/119)であり、主な副作用は腹痛3.4%、腹部膨満1.7%等であった。²⁾

副 作 用	発現率(件数)
腹 痛	3.4%(4件)
腹 部 膨 満	1.7%(2件)
下 痢	0.8%(1件)
泥 状 便	0.8%(1件)
吐 き 気	0.8%(1件)
胸 や け	0.8%(1件)
悪 心	0.8%(1件)

2) 造影剤投与後の排便促進

造影剤投与後の排便促進における副作用発現率は7.1%(2/28)であり、副作用の内訳は腹鳴3.6%、腹部不快感3.6%であった。³⁾

副 作 用	発現率(件数)
腹 鳴	3.6%(1件)
腹 部 不 快 感	3.6%(1件)

5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

2) 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

11. 小児等への投与
該当しない

12. 臨床検査結果に及ぼす影響
該当資料なし

13. 過量投与
該当資料なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。
(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞
炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

15. その他の注意
該当しない

16. その他

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

2) 副次的薬理試験

該当資料なし

3) 安全性薬理試験

該当資料なし

4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

	規制区分
製剤	該当しない
有効成分	該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

1) 薬局での取扱い上の留意点について

特になし

2) 薬剤交付時の取扱いについて(患者等に留意すべき必須事項等)

くすりのしおり：有り

VIII. -14. 参照

3) 調剤時の留意点について

特になし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

PTP：100錠(10錠×10)

7. 容器の材質

PTP：[PTPシート]ポリ塩化ビニルフィルム、アルミ箔

[ピロー]アルミラミネートフィルム

8. 同一成分・同効薬
 同一成分：ラキソベロン内用液0.75%/錠2.5mg
 同効薬：センノシド、ビサコジル等
9. 国際誕生年月日
 該当しない
10. 製造販売承認年月日及び承認番号
 ●ピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」
 製造販売承認年月日：2014年1月27日(販売名変更)、承認番号：22600AMX00111000
 スルチミン錠2.5mg(旧販売名)
 製造販売承認年月日：2006年5月19日(販売名変更)、承認番号：21800AMX10413000
 スルチミン錠(旧販売名)
 製造販売承認年月日：1992年2月29日、承認番号：(04AM)0361
11. 薬価基準収載年月日
 ●ピコスルファートNa錠2.5mg「サワイ」：2014年6月20日(販売名変更)
 スルチミン錠2.5mg(旧販売名)：2006年12月8日(販売名変更)
 経過措置期間終了：2015年3月31日
 スルチミン錠(旧販売名)：1992年7月10日 経過措置期間終了：2007年8月31日
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容
 該当しない
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容
 該当しない
14. 再審査期間
 該当しない
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報
 本剤は、投薬(あるいは投与)期間に関する制限は定められていない。

X. 管理的事項に関する項目

16. 各種コード

品 名	HOT番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
ピコスルファートNa錠 2.5mg「サワイ」	104889602	2359005F1013	620488901

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

XI . 文献

1. 引用文献

- 1) 日本薬局方解説書編集委員会編，第十六改正 日本薬局方解説書，廣川書店，2011，C-3603
-C-3607.
- 2) 房本英之他，薬理と治療，**19**(3)，1173(1991).
- 3) 目連晴哉他，医学と薬学，**25**(3)，867(1991).
- 4) 日本公定書協会編，医療用医薬品 品質情報集，No. 19，薬事日報社，2004，p. 196.
- 5) The Merck Index 14th edition，2006，p. 1276.
- 6)～7) 沢井製薬(株) 社内資料[安定性試験]
- 8) 沢井製薬(株) 社内資料[溶出試験]
- 9) 沢井製薬(株) 社内資料[薬理学的試験]
- 10) 南山堂 医学大辞典，第19版，南山堂，2006，p. 2058.

2. その他の参考文献

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

2. 海外における臨床支援情報.....
該当資料なし

XIII. 備考

その他の関連資料.....



日本ジェネリック株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目 9 番 1 号